

三次市行財政改革推進審議委員会 会議の要旨

- 1 日 時 平成 23 年 3 月 29 日(火) 13 時 30 分 ~ 16 時 30 分
- 2 場 所 三次市役所東館 4 階会議室
- 3 出席委員 野原会長，堀江副会長，山田委員，湯藤委員，鷲尾委員，
當天委員，今澤委員，元吉委員，村山委員
- 4 事務局 三次市地域振興部企画調整課企画調整係
出席者 村井市長，元廣地域振興部長，山本企画調整課長，
中原企画調整係長，大谷企画調整係主任
- 5 会議の内容
 - (1)三次市財政状況について
 - (2)次期三次市行財政改革大綱(案)について
- 6 会議の資料名一覧
 - 資料 1 三次市行財政改革推進審議委員会委員名簿
 - 資料 2 次期行財政改革大綱について
 - 資料 3 次期行財政改革フロー図

三次市行財政改革推進審議委員会 議事要旨

議事内容

三次市の財政状況について

次期三次市行財政改革大綱について

各委員から出された意見

三次市の財政状況について

- ・ 地方の事業が増えているのではなく、国の事業が増えていることがよくわかった。このままだと「協働のまちづくり」三次らしさを出したまちづくりができないのではないかと。
- ・ 市民の負担も考えていく必要があるし、国の施策も変えていく必要がある。しかし、そこに行くまでに三次市としての改革を進めていく必要があると思う。
- ・ 私たち自身も国に期待したり願望したりした部分があったと思う。今度は、私たちに何ができるのかを考えていかなければならないと思う。
- ・ 人口をどう増やしていくかも大きな問題だと思うが、昨今のハローワークの求人広告などをみていると約3分の1が医療・介護関係である。産業の面からすると大いに寂しい気がする。その背景をみると三次市が元気にならないと住民サービスも良くなならない。住民サービスがよくなならないと住民も元気にならないというところをどう解決していくか。
- ・ 自分のところが頑張らないと黒字にならない。誰もが少し辛抱して、三次市全体、日本全体が、少し辛抱して少し昔に戻って、耐えること、贅沢をしない生活を訴えていく。また、三次市をもっとPRして、元気のある三次にならないかなと思う。
- ・ このような三次市の（財政）状況について、はたしてどれだけの市民が知っているのか。徹底した情報公開が必要だと思うが数字で言

ったのはいけない。具体的に、例えば水道料金が2倍になるとか3倍になるとか市民の生活にどう影響してくるのか描けなければいけないと思う。市民のために三次市がするのではなくて、市民が三次市のために何をしてくれるのか、何ができるのかを考えていく必要がある。そのためには、三次市の議会であるとか職員、市の関係者が頑張っている姿を見せないと「助けてやろう」という気にはならないと思う。

次期三次市行財政改革大綱について

- ・ 方向性はあっていると思うが、市民が事業費を我慢し、負担もあるということを、改革の必要性のあたりでもう少し触れておく必要があるのではないか。行政だけが改革するのではなく、「市民の負担も必要です」という具体的なものがあってもいいのではないか。
- ・ 新たな産業に期待するのはなかなか難しい。それに代わるものが住民参画ではないかと思われる。その協働のまちづくりのシステム作りが重要である。
- ・ 計数化しないと何パーセント達成したかわからない。逃げの姿勢では改革することはできない。ほとんどの事業が計数化できるはずだ。例えば、人件費5パーセント削減などは数字として出せるはず。人員抑制についても同じだ。
- ・ 監査機能の充実だが、監査とは、例えばものを買ったときにそれが本当にあるのかどうか、そういったことを確認するところだ。細かくやっけていかないと垂れ流しのような感じになる。
- ・ 交付金・補助金の見直しだが、市に言えば何かしらの補助が受けられると思われている。ある程度バツサリと切るということを考えていかないと最終的に市民に跳ね返ってくるということを考えながら進めていく必要がある。
- ・ 項目、方向性等は間違っていないと思う。ただ、元気の出るような目標があまりないように思う。海外からも観光客が来るような元気の出るまちづくりについて、どこかの項目に盛り込んでほしい。
- ・ 平成17年度策定の大綱と見比べてみたが、次期大綱と現行の大綱

との大きな変更ポイントがどこなのかを明らかにしたほうが市民に分かりやすいのではないか。

- ・ 重点項目の見出しで、分かりやすくするには「選択と集中」のところ。基本理念では民間活用ということで書かれているが、アウトソーシングによって削減効果をいかに狙っていくかだと思う。次期大綱では、そのへんが押さえられてわかりにくい。
- ・ 市有財産の整理統合廃止だけではなく、その後の活用というものもほしい。その活用が民間活用のことであり、市民との協働につながっていくわけで、スクラップアンドビルドが分かりやすい方向で考えていったほうがいいと思う。
- ・ 市民チェックで感じたが、同じ事務事業が多いことだ。同一事業の洗い出し集中化を打ち出したほうがいいと思う。
- ・ (計画が)少し硬くなりすぎているようなイメージがある。ソフトの部分でひとつづくり、結局はひとつづくりが大事だと思う。ひとつづくりの中で一緒に考えていくというのがあればいいと思う。
- ・ (計画の)重点項目のどこに位置づけされるかわからないが、三次市の人口は急激に減り、(合併前の)旧三次市に近づいていると思う。当時の議員定数は20人だった。もう少し議員のスリム化を考えていく必要がある。また、支所については、支所機能を強化するのではなく、支所機能を自治組織に移すなどの方法があるのではないか。支所のスリム化もそろそろ考えていく必要がある。
- ・ 効率的な組織体制。無駄を無くし横のつながりを徹底することで、少しでも行政改革につながるのではないか。
- ・ 行政は、財政難を理由に必要な投資を怠らないようにしてほしい。住民は、行政に対して過剰な期待をしないで、一人ひとりが大人になって公的精神を持つことが必要だと思う。
- ・ 行政の情報をしっかりと提供していくことが重要。自己改革の部分では、人材の研修という点も重要で、研修の意義を考えて一方通行の講演会的な研修ではなくて、積極的に意見交換ができる場の提供も必要である。市役所の自己変革は、市民の自己変革でもある。こういった行財政改革というものは、組織内だけで進めるケースが多

いが、外部の意見をどんどん取り入れることは大切だ。地域住民が自己成長できるようなシステム作りをしていただきたい。

•